

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 文化芸術活動をはじめとする市民の活動の場となる(使命1)	市民だれもが気軽に発表・創作活動が出来るためのさらなる利用促進の取組 リピーターのニーズに応え、利用率の向上を図る割引優遇制度の実施(様式22-B)	■市民利用施設予約システムでの抽選や、空き施設申し込みによる公平で公正な貸出し業務を行う。	実施	実施	市民利用施設予約システムでの抽選、随時申し込みにて公平公正な貸出しを行なった。	【成果】 公平、公正な施設の貸し出しに留意し、利用率利用料収入ともに指定管理開始以来の最高値を更新した。 生中継動画配信を備えてあることでリアル参加が不可能な方も参加が可能となり、研修・講演・会議などに多く利用された。 ガイドラインに則った感染症拡大防止対策への取り組み、様々な割引制度を継続し、前年度を上回る稼働率の回復に繋げた。 今年度も引き続き、コロナ感染症の影響からセミナーなどの内容をホール設置の「リアル動画配信システム」を使用してネット配信するニーズに対応した。 【課題】 「マイ練習プラン」はコロナ感染拡大防止のため実施を見送ったが、市民への練習機会、新規利用者の開拓に向けて次年度には実施していく。 感染症の終息については、まだ見通せない状況にあるため、感染拡大前から実施していたリスクの高い参加型事業の実施については、慎重に検討していくことが求められる。	【評価できる点】 稼働率向上に向けて多様な取組を実施していること。 なかでもコロナ対策として生中継動画配信設備を準備し、利用者のニーズに対応したこと。 【更なる取組を期待する点】 直前申請割引や市民文化団体割引などの取組は、各取組の実施による効果を分析し、次年度以降の取組の検討に反映してください。
		■市民の文化振興を図り、新規利用者を開拓するための貸出サービスの実施	実施	未実施	コロナ感染拡大防止のため未実施。		
		■大・小ホールに生中継動画配信設備を設置し、利用者へ無料で提供する。	実施	実施	大・小ホールに生中継動画配信設備を設置し、利用者へ無料で提供した。		
		■利用1ヶ月前を切った大・小ホールの空きコマについて、「直前申請割引(遅割り)」を実施する。	実施	実施	利用1ヶ月前を切った大・小ホールの空きコマを、「直前申請割引(遅割り)」にて貸出を実施した。		
		■リハーサル室スタンプカード会員サービスを実施する。	実施	実施	リハーサル室利用者を対象としたスタンプカードサービスを実施した。		
		■大・小ホール、リハーサル室全室を終日利用する場合、リハーサル室4部屋分の料金を割引する「全館利用割引」を実施する。	実施	実施	大・小ホール、リハーサル室全室を終日利用した団体に、リハーサル室4部屋分の料金を割引する「全館利用割引」を実施した。		
		■設営やリハーサルに使用した時間帯について割引を適用する「リハーサル区分割引」を実施する。	実施	実施	設営やリハーサルに使用した時間帯は「リハーサル区分割引」を実施した。		
		■サポートーズ俱楽部の登録団体が共催で事業を行う場合、利用料金について10%~100%割引を適用する「サポートーズ俱楽部共催割引」を実施する。	実施	実施	公益性が高く、経済的な支援が必要な団体には、利用料の割引を実施した。		
		■保育園・幼稚園など未就学児童が主体となる団体の利用に対し、割引を適用する「未就学児童特別割引」を実施する。	実施	実施	保育園・幼稚園など未就学児童が主体となる団体の利用に対し、「未就学児童特別割引」を実施した。		
		■利用1ヶ月前までの練習利用について割引を適用する「市民文化団体割引」を実施する。	実施	実施	本番利用の1ヶ月前までの練習利用について「市民文化団体割引」を実施した。		
2 市民の創作活動のための機会の提供	市民とともに創り上げる、創作ワークショップと発表機会の提供 市民が気軽に参加できる公演事業の開催 リハーサル室の定期利用者による文化発表会の開催	□ゴスペルワークショップ(3か月間) □横浜市民ミュージカル □横浜市民こどもミュージカル	3事業	1	コロナ感染拡大防止のため、ゴスペルワークショップを中心とした。市民ミュージカルは、実行委員会の都合により実施されなかった。	自己評価	行政評価
		□参加型コンサート事業2事業 *陽だまりコンサート(1事業4公演) *ゴスペルWS修了コンサート1000人ゴスペル	2事業	0	コロナ感染拡大防止のため中止した。		
		■小ホールを利用した「文化発表会」の実施	次年度以降の開催に向けた企画・立案	企画検討	リハーサル室利用団体に適時ヒアリングを行い、団体のニーズや対象団体の洗い出しが行った。		

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 文化芸術の鑑賞機会を提供する(使命2)	文化芸術のジャンルを拡げた、様々な鑑賞・体験・アウトリーチの機会の提供	音楽	28公演	31	八神純子、海援隊など懐かしいヒット曲で知られるポップスから、ロック、ジャズ、クラシックまで幅広く実施した。	【成果】市内中心部に位置する唯一の1000席規模の多目的ホールとして、主催・共催・協力事業において幅広いジャンルの鑑賞機会を提供し、目標値を大きく上回ることができた。その他の一般利用においても、多くの鑑賞事業が行われており、市民の鑑賞機会の増大に大きく貢献することができた。 【課題】ハード面においてバリアフリーに課題のある施設のため、より丁寧なご案内・対応を行っているが、受け入れ可能な人数やご案内可能な座席の位置と数など自ずと限界があり、さらなるソーシャルインクルージョンの促進について提案書にどうぞ検討していく必要がある。	【評価できる点】様々なジャンルの公演が開催され、市民に多様な鑑賞機会を提供できること。 【更なる取組を期待する点】コロナの影響もあり、体験型事業やアウトリーチ事業が実施できませんでしたが、こうした機会を捉えて、次年度に向けた取組の検討を進めてください。
				1	コロナ感染症の影響で、予定していたグローリーゴスペルシンガーズの来日が中止になった。		
				7	声優アイドルグループや若手ボーカルグループ、子供向けイベントが毎年定期的に開催され、走行している。		
		ダンス	2公演	4	ロシアのモイセエフバレエ団や東京バレエ団のバレエ公演など質の高い公演が行われた。		
		演劇・ミュージカル	1公演	1	歴史のある横浜のアマチュア劇団「劇団かに座」の公演が行われた。		
			1公演	2	ヨーロッパ企画の公演のほか、映画上映会を本欄に計上した。		
		伝統芸能	8公演	18	主催の閑内寄席のほか、共催協力事業で落語会や邦楽演奏会を行った。		
		市民が気軽に参加できる体験型やアウトリーチ事業の開催	1回	0	コロナ感染症のリスクを考慮し、実施を取りやめた。		
		ソーシャルインクルージョンに配慮した鑑賞の機会を提供するための取組	4事業	6	コロナ感染症のリスクを考慮し、ゴスペルワークショップと陽だまりコンサートを取りやめた。		
			6公演	3	3公演において、障がい者のキヤッショバッケを行った。陽だまりコンサートの中止により、障がい者招待が出来なかつた。		
			1事業	0	主催団体の都合により、中止となつた。今後の開催についても、実施の可能性が低く、他の事業を検討する。		
			実施	実施	適宜ご案内し、対応した。		
	3 次世代を担う人材を育む(使命3)	横浜が誇る公的な文化芸術事業に積極的に協力	3事業	5	横浜市教育委員会が主催する「心の教育・バレエの世界」に開場を提供するとともに、制作業務を受託し、円滑な運営に協力した。その他、公的機関の主催・共催事業を開催した。	【成果】乳幼児から参加できる多様な鑑賞機会を提供し、幼少期から文化芸術に触れる機会の増進に貢献した。横浜市教育委員会が主催する「心の教育・バレエの世界」の実施については、会場の確保だけではなく配席などの制作業務や当日の運営業務を受託し、円滑な運営に貢献した。 【課題】これまで支援してきた新進アーティストがすでに年月を経てきたため、今後の支援を模索する時期に来ている。新たなアーティストの発掘についても、若手支援の団体などと連携し、より広がりのある取り組みが必要である。	【評価できる点】子ども向け事業、新進アーティスト支援事業など多くの事業で目標を上回る回数を実施することができたこと。 【更なる取組を期待する点】市民ライター講座と市民映像講座は実施されませんでした。今年度の検討状況を生かして次年度の取組につなげてください。
		1 子どもたちの成長度合いに合わせた文化芸術との出会いを提供	3事業	7	乳幼児向けの「よちよちひなたぼっこコンサート」や子供向け英語劇など多彩な鑑賞機会を提供した。		
		口子供たちが解り易く楽しく文化芸術を学ぶ場の提供	2事業	5	地域創造の助成事業「リージョナルシアター」でパックステージツアーや舞台体験、ホールでのワークショップやクラシック音楽や楽器のレクチャー付きコンサートを主催した。		
		2 新進アーティストを支援する、発表機会の提供	4事業	5	馬車道ショートパフォーマンスライブ出身のアーティストのライブや新進気鋭のギタリストの公演を主催した。		
		口ショートパフォーマンスライブ	年10回	5	往来の密集に配慮しつつ、過去の出演者や地域との連携事業において回数を制限して実施した。		
		3 横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力	口コーディネイト	小学校2校	3	当初依頼のあった小学校2校に加え、中学校1校についても受け入れ、3校で計7回実施した。	
		4 私たちの強みの発揮による市民に対する文化芸術活動の担い手の育成	口市民写真講座	1事業	1	神奈川新聞社の元写真部長を講師に迎え、受講者が持参した写真の好評と近隣で撮影しながらの指導を行つた。	
			口市民ライター講座	1事業	0	具体的な企画の立案に至らず実施を見送った。	
			口市民映像講座	1事業	0	具体的な企画の立案に至らず実施を見送った。	
			口ピアノ練習プラン(2時間単位貸し)を設ける。	実施	未実施	稼働率が非常に高くホールの貸し出しを優先したため、実施を見送った。	

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
4 地域のにぎわいを創出する(使命4)	地域の賑わい創出への取組	地元・馬車道商店街などとの様々な連携関係の構築	■ホワイエに「馬車道商店街店舗用チラシラック」を設置し、商店街の活性化に協力する。	実施	実施	エントランスホールに店舗用チラシラックを設置し、チラシ等の配架を行った。	【成果】馬車道商店街協同組合とは、馬車道まつりアートフェスタやあいすくりーむ発祥記念イベントなど様々な機会で連携することで、地元のにぎわい創出に積極的に協働を行った。六川理事長から「あいすくりーむ発祥記念イベントや馬車道まつりアートフェスタなどは、関内ホールなくしては実施が難しい。」との評価をいただいたことはこの上ない成果である。 tvkの番組との連動公演は、先方のスケジュールの都合で1公演のみとなつたが、情報番組内での情報告知やスポットCMは目標を上回り、高い露出による宣伝効果で多くの市民に周知することができた。神奈川新聞においては、目標を大きく上回る広告掲載や後記事により効果的なパブリシティが実施できた。 その他、新聞広告や新聞折り込み、フリーペーパーやフリーの情報サイトなど、様々な媒体で広報を行い、来館者以外の市民の認知度向上を図った。 共同で主催する事業以外でも馬車道商店街協同組合の事業に協力し、信頼関係を深めることができた。
			■馬車道商店街が実施するイベントについて、チラシ制作及び配架、ウェブサイトでの情報発信に協力する。	実施	実施	あいすくりーむ発祥記念イベント、馬車道まつりのチラシ作成、広報を行うとともに、「がんばろう商店街」イベントなどのサポート、SNSでの告知を行った。	
			■商店街の店舗と連携したクーポンサービス(チケ得)を実施する。	実施	実施	ホームページに「チケ得」の専用ページを作成し、周知に努めた。	
			■従来とは異なる層の来街者創出のため、若者やファミリーを対象とした事業の充実に取組む。	実施	実施	積極的な誘致により、次年度は子ども向け企画「恐竜パーク」やダンスボーカルグループlolのイベント、LDHが運営するダンススクールの発表会などの利用を確定した。	
		共同事業体の専門性を活かした多彩な広報・プロモーション活動	■月刊イベント情報誌「Kannainfo」を作成し市内の施設や駅等に定期配布を行う。	実施	実施	計画通り、横浜市のPRボックスや市内公共施設、市外の文化施設に配布し、配架を行った。	
			■利用者向け公式Webサイトを運営する。	実施	実施	ホームページに利用スケジュールを掲載し広報の支援を行った。	
			□tvk昼の情報番組で事業告知を放映	5事業	9	毎週月曜～木曜 ひる12:00～13:30 生放送の「猫のひたいほどワイド」内で、事業の告知を行った。	
			□スポットCMを制作し、tvkで放映	8事業	9	9事業のスポットCMを制作し、延べ1,122回放映した。	
			□tvkの番組との連動公演	2事業	1	「猫のひたいほどワイド」の番組イベントを実施した。	
		地域の文化を継承する様々な取組み	□神奈川新聞で施設や事業の紹介を掲載	年6回	34	全五段広告を21回掲載したほか、イマカナやカナロコに広告を掲載した。また、「フォト教室」の後記事を掲載し、実施内容の周知を行った。	【課題】「地元」といっても、決してひとくくりには出来ず、商店街や地域ごとに特色があり、地域性や方向性が違うため、関内全域ではなく、まずは馬車道との強固な信頼関係の構築が優先されるため、その他の地域との連携については細心の配慮が求められる。
			■事業広報に新聞・フリーペーパー・地域情報誌を活用する。	実施	実施	東京新聞、毎日新聞、タウンニュースなどに有料広告を掲出したほか、定年時代、嬉しいドットコム、お出かけ情報サイト「いこーよ」、タウンニュースのチケットプレゼントなど無料の媒体を積極的に活用した。	
			■Twitter、FacebookなどのSNSや、メールマガジンを活用した情報発信を行う。	実施	実施	Twitter、Facebookの更新頻度を高め、メールマガジンを月二回程度送付した。	
		地元事業への積極的な貢献	□関内ホールでの公演や発表会を収録しデジタルアーカイブとしてyoutube「関内ホール動画コレクション」で配信する。	新規8タイトルを追加	10	公演や発表会の録画・配信は著作権や個人情報の許諾が難しく実施に至らなかったが、商店街のイベント動画や街歩きイベントの成果をスライドショーなどを動画コレクションに追加した。	【評価できる点】馬車道商店街協同組合とは、馬車道まつりアートフェスタやあいすくりーむ発祥記念イベントなど様々な機会で連携することで、地元のにぎわい創出に積極的に協働を行った。吉野町市民プラザ及び岩間市民プラザとの3館連携事業は、今年度企画検討を行ったとのことだが、価値のある取組につながるよう期待します。
			■建物北壁面において「Back Street Gallery」を公開する。	実施	実施	「Back Street Gallery～街の記憶・劇場の記録」において、街の歴史的な写真や資料、関内ホールで行われた世界的なアーティストのパネルなどの展示を行った。	
		新たな地域貢献への取組み	■馬車道商店街などが実施する定例行事やお祭りなどに、企画・広報など専門性を活かした協力をを行う。	実施	実施	ハマフェスY163や馬車道まつりの街頭ライブへの技術協力や馬車道まつりアートフェスタにおける東京ガス150年記念イベントの企画・広報協力を実施した。	
			□馬車道商店街等、地域の定例行事とタイアップした連携事業の実施	7事業	10	あいすくりーむ発祥記念イベントで2事業、馬車道まつりアートフェスタで8事業を主催・共同主催として実施した。	
		新たな地域貢献への取組み	■関内まちづくり振興会との連携による取組み	次年度以降の開催に向けた企画・立案	実施	アートフェスタと同日の11/3に開催される関内まちづくり振興会が主催する「関内フード＆ハイカラフェスタ」の開催情報をアートフェスタ総合チラシに掲載し、広報協力を実施した。	
			■吉野町市民プラザ、岩間市民プラザとの3館連携事業の実施	次年度以降の開催に向けた企画・立案	企画検討	12/1, 2/24, 3/23に連携会議を実施し、企画検討を行った。	
			■リポーター講座等の実施による、地域情報発信者の育成	実施	未実施	リポーター講座は、調整がつかず実施できなかつた。	

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

Ⅱ集会や講演会利用への施設の提供	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 発表会や講演会・集会等におけるきめ細やかな主催者支援サービスの実施(使命1-3)	1 舞台技術者1名が事務所に常駐することによる、専門的なアドバイスとサポートの実施 2 ステージコンシェルジュによる、利便性の高いワンストップサービスの提供	■舞台の専門知識を持ったスタッフによるサービス対応	実施	実施	舞台の専門知識を持つ職員を事務室に配置することで利用者サポートに務めた。	【成果】専門スタッフによるきめ細かなアドバイスや、公演に必要な物品等の取り次ぎを行うステージコンシェルジュはワンストップサービスにて提供することを趣旨とし1期目の指定管理から行っており、引き続き利便性が高いサポートを実施し、主催者から信頼を得ている。リピーター、新規の利用者に関わらず、すべての利用者が安心してご利用いただけるようサポートした。 【課題】大小ホールともに高い稼働率にあり、ホール下見や打合せの調整が難しく、問い合わせ対応も非常に多いため、業務の質を維持するためには業務のフローなどの工夫調整が必要である。	【評価できる点】主催者に配慮した取り組みがなされていること
		■専門知識を持つスタッフによる公演実施に関するきめ細かなアドバイスと、説明マニュアルやビジュアル資料を用いたご案内により発表会・集会・講演会等の利用をサポート	実施	実施	舞台専門知識を持つスタッフによる利用サポートを実施した。		
		■公演に必要な物品の手配 生花取次/弁当取次/看板取次/機材取次/見学対応	実施	実施	ワンストップサービスを基本とし、利用申請、事前利用打合せ時に必要物品の手配を行った。		
		■施設利用者に対しWebサイトや月刊イベント案内「kannainfo」で催し物の告知を行う。	実施	実施	利用者のニーズに即しイベントの案内を公式webサイト、「kannainfo」で告知を実施した。		
		■ホールで実施する公演のチケット販売カウンターの設置	実施	実施	チケットカウンターは設置し関内ホール開催公演のチケット販売を行った。		
2 施設の利用調整	3	■行政が主催・共催する講演会や集会などに引き続き優先枠を提供する。	実施	実施	行政が主催・共催するイベントに優先枠を提供した。	【成果】横浜市が主催・共催する催事などの実施に際し、優先予約による会場の確保を行い安定的な開催に寄与した。 【課題】行政利用についても、一般市民利用と同様、条例施行規則に従わなければならないため、条例等に沿った運用が求められる。	

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 利用者満足度の向上につながる、様々なニーズの把握とその対応策の検討(使命1-4)	1 利用者満足度の向上につながる様々なニーズ把握	■利用者のニーズを把握するため、主催者、来場者、事業参加者に向けた各アンケートを実施する。 ■事業主催者(利用者)へのヒアリングを随時行う。	実施	実施	利用者に向けたアンケートを実施した。 施設利用者へのヒアリングは随時行った。	【成果】利用者アンケートにおける運営面については大方満足していただいている。引き続き利用者の声に耳を傾け、寄り添った運営を心がける。 【課題】次期9月の予約システム変更時に導入されるオンライン決済について、利用者のニーズは高く運用面について注視する必要がある。 ハード面についての苦情要望については、指定管理者で対応できることは限られるため、設置者とのさらなる協力連携が求められる。	【評価できる点】利用者アンケートにおいて、運営面での評価で満足度が高いこと 職員を対象とした個人情報保護研修や危機管理研修といった優先順位の高い研修を年度当初の4月に実施したこと。 【更なる取組を期待する点】市民モニターとの意見交換は、利用者以外の方から意見を伺える貴重な機会です。いただいたご意見を今後の館運営につなげてください。
	2 PDCA発想に基づくニーズ・要望への対応	□各運営セクションの責任者による月1回の責任者会議を実施し、業務の改善に努める。	月1回	2ヶ月に1回	各セクション責任者一同が揃わない時は個別ヒアリングや、日ごろからコミュニケーションをとり業務改善に務めた。		
2 苦情発生に対する取組(使命1-5)	1 過去の苦情や対応をもとにした「苦情対応マニュアル」の作成	■過去の苦情およびその応対を参考に「苦情対応マニュアル」を作成し全職員が共有する。	実施	実施	苦情対応マニュアルを配備し共有した。	【成果】ロシアバレエや特に多かった外壁工事の苦情においてもマニュアルに基づき対処し、概ね沈静化することができた。 【課題】騒音や臭いなどについては、それぞれの感じ方や状況に大きく左右され、発生自体を止めない限りクレーム対応には限界がある。また、苦情の中には脅迫的な言い回しの文言もあり、対応した職員のケアも重要である。	【成果】利用者からの問合せの多くは舞台についてが大半を占め、舞台技術員が配置されていることで、利用者へスムーズに応えることができた。 第4期指定管理期間の1年目は、前年度在籍職員の半数以上が入れ替わったが、OJTにより速やかに業務を覚え実施した。新規採用職員も速やかに業務に従事できるようマニュアルを分かりやすく再整備し、業務の平準化・効率化を実現した。
	2 苦情対応フローの構築	■苦情対応フローに沿って、苦情に対する処理を行う。	実施	実施	苦情に対して利用者に寄り添った対応に努めた。		
	3 日常業務での気付き(ヒヤリ・ハット)の記録・共有	■日常の「ヒヤリ・ハット」事例を日報に記載するとともに「運営調整会議」を通じ全職員が共有する。	実施	実施	ヒヤリ・ハットなどビジネスチャットを活用しリアルタイムで共有した。		
3 組織的な施設運営(様式14.15)	1 専門性が高い効率的な組織体制(様式14-1)	■事務所に舞台技術の相談員として舞台技術者を常時1名配置する。	実施	実施	舞台専門知識を持つ職員を事務室に配置した。	【成果】高い稼働率と非常に多い業務量の中で、全員そろっての集合研修の調整が難しく、オンライン研修を利用する機会が増えていく。その中でいかに効果的に研修を実施し、業務に生かしていくかが課題である。	【課題】
		■定期的な会議に加え、ビジネスチャットツール(slack)を用いた情報共有を行うことでマルチジョブ化を進め、効率的な運営を実施する。	実施	実施	ビジネスチャットを活用し高効率な運営を実施した。		
		■施設の管理運営にあたっては、専門分野の人材を適正に配置する。	実施	実施	専門分野の人材を配置した。		
	2 円滑な管理運営のための各種会議の実施	□朝礼	毎日	毎日	8:45に実施した。		
		□職員会議	月1回	月1回	月1回職員会議を実施した。		
		□関係機関連絡会(店舗・青少年育成センター)	年2回	年1回	店舗会議は年1回実施した。		
		□利用調整会議(横浜市)	月1回	月1回	5月は未実施となったが6月に2回実施した。		
		□運営委員会(JV会議)	四半期に1回	年4回	年度内4回実施した。		
	3 必要人材の配置と職能	□責任者会議	月1回	2ヶ月に1回	各セクション責任者一同が揃わない時は個別ヒアリングや、日ごろからコミュニケーションをとり業務改善に務めた。		
		■共同事業体各社から業務ごとに専門性の高い常勤職員10名を適正に配置する。	実施	実施	専門性の高い常勤職員10名を配置した。		
	4 主要人材の能力担保	効果的なOJTの実施	■職員各自に応じたOJTについて年間を通じて実施する。	実施	年間を通じてOJTを実施した。		
		□接遇マナー研修	年2回	年2回	11月、12月に実施した。		
		□人権研修	年1回	年1回	1月に実施した。		
		□インスタントシニア研修	年1回	年1回	2月に実施した。		
		□コンプライアンス研修	年1回	年1回	2月に実施した。		
		□個人情報保護法研修	年1回	年1回	4月に実施した。		
		□危機管理研修	年1回	年1回	4月に実施した。		
		□防災訓練	年2回	年2回	7月、2月に実施した。		
		□普通救命講習	年1回	年1回	7月、2月に実施した。		

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

4 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用 (様式25)	1 広報活動、その他情報提供における独自ノウハウの発揮(提案1)	□関内ホールでの公演や発表会を収録しデジタルアーカイブとしてyoutube「関内ホール動画コレクション」で配信する。 ■1階ロビー設置のデジタルサイネージで施設情報や事業についての告知、馬車道商店街の情報等を放映する。	(再掲)	10	公演や発表会の録画・配信は著作権や個人情報の許諾が難しく実施に至らなかつたが、商店街のイベント動画や街歩きイベントの成果をスライドショーなどを動画コレクションに追加した。	<p>【成果】 ステークホルダーに適時ヒアリングを行い、よりよい運営に向けた建設的な意見交換が行えた。 来館者からの問い合わせが多かった諸室の場所について、サインを追加し、適切な案内が行えるようになった。</p> <p>【課題】 新規市民モニター、喫茶コーナー、子ども向けプログラミング講座などはアフターコロナの中で実施方法等を慎重に検討する必要がある。関内ホールがやるべきこと、関内ホールにしかできないことを改めて見直し、リソースを効果的に集中していくことが必要である。</p>
	2 利用者以外の様々な声を聞くことによるさらなる施設の魅力向上(提案2)	□馬車道商店街とのヒアリングを毎月1回行う。 ■事業主催者へのヒアリングを随時行う。 ■市民モニターとの意見交換を随時行う。 ■公募により市民モニターを募集し、主催事業についての意見や感想をWebサイトで公開する。	実施	実施	デジタルサイネージで施設情報、事業告知、馬車道の情報を放映した。	
	3 当施設の利用者に対する快適性向上の取組(提案3)	■出店を希望するイベントの開催時に、大ホール2階ホワイエのカフェコーナーで臨時出店を行う。 ■リハーサル室4部屋についてインターネット環境の整備を進める。	実施	未実施	馬車道商店街、事業主催者とのヒアリングは随時実施した。 市民モニターと随時意見交換を行った。	
	4 持続可能な未来のために私たちができるること(提案4)	■SDGs映画会の開催 ■子供向けプログラミング体験講座の開催	実施に向けた立案	実施に向けた検討	新規公募による市民モニター募集は未実施。 SDGsのために関内ホールが出来ることを検討中であり、立案には至らなかった。	
	5 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出 ■休館日、開館時間について年度ごとに横浜市へ届出を行う。	実施	実施	休館日開館時間について届出を行った。	
	2 許認可及び届け出	■ホール内の飲食物販売など、許認可の取得や届出を必要とする場合は関係各所に対し適正に申請を行う。	実施	実施	新たに食品衛生責任者を選任し、営業許可を更新した。	
	3 目的外使用料の申請	■自動販売機、携帯中継アンテナ等の目的外使用の申請について横浜市へ届出を行う。	実施	実施	目的外使用の申請について届出を行った。	
	4 財務状況の確認	■財務状況の確認のため、横浜市の要請に応じ財務諸表などの財務状況について確認できる書類を提出する。	実施	実施	テレビ神奈川の財務状況確認書類を提出した。	

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
IV 施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 保守管理業務(使命5)	仕様基準を上回る高品質な施設管理のための創意工夫	■施設や設備の特性や、公演実施時の注意事項などを熟知し、「施設管理業務のPDCA」に沿った的確な管理運営を実施する。	実施	実施	PDCAサイクルを実行し、業務を継続的に改善するよう努めた。	【成果】計画通り履行し、複合施設の管理者として、施設全体維持、快適な環境を提供した。 【課題】大規模改修を行ったものの建設から30年以上が経っており、長寿命化につなげるため修繕において市と協議し推し進める必要がある。	【評価できる点】日々の保守管理業務を適切に実施していること
		■ホール利用の繁閑差に応じ、経験値に基づいた的確な空調コントロールを行う。	実施	実施	経験則に基づいた空調コントロールを行った。		
		■老朽化した排水設備に対し、迅速かつ的確に状態を把握することが可能なファイバースコープ診断を実施する。	実施	実施	ファイバースコープ使用するほど老朽化は進んでいないが、いつで導入は可能。		
		■店舗(6区画)及び青少年育成センターの専有エリアを含めた建物、設備の保守管理を適切に行う。	実施	実施	店舗、育成センターを含めた保守管理を行った。		
		■緊急性と重要度に基づいた修繕(突発修繕・計画修繕)を実施して施設の長寿命化を図る。	実施	実施	突発修繕、計画修繕を実施した。		
		■備品管理簿をデータ化し、備品管理を効率的に行えるよう取組む。	実施	実施	市指定の備品管理簿にて備品管理を行った。	【成果】計画通り履行し、複合施設の管理者として、施設全体の美観を維持し、快適な環境を提供した。 【課題】公演によって楽屋や通路で針が落ちたり、ラメ、スパンコールなど通常清掃では取り切れない物もあり、利用者の協力も必要である。また大人用おむつの放置や便器の外を汚すなどが多く、常時対応するためのスタッフ配置に苦慮している。	【評価できる点】日々の保守管理業務を適切に実施していること
		■館内設置のグランドピアノ4台について適切な保管環境の維持に加え、定期メンテナンスを実施することで良好な状態を保つ。	実施	実施	保守点検、定期メンテナンスを実施した。		
		□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告する。	実施	実施	物品管理簿による整理を実施し、最新の物品管理簿を市に提出した。		
		■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に記載された環境維持管理業務を、着実に遺漏なく実施する。	実施	実施	指定管理者業務の基準に則した環境維持管理を実施した。		
		■施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃業務を適切に行う。	実施	実施	清掃業務を適切に実施した。		
2 環境維持管理業務(使命5)	事故防止および犯罪防止のための方針と対策	■ホールの利用状況に応じた臨機応変な清掃対応を実施する。	実施	実施	利用状況に応じた清掃を実施した。	【成果】来館者が安全に安心して過ごせるよう保安警備業務を履行し、お客様が危険を感じるようなことはなかった。 【課題】人的被害はなかった一方で、美術品への落書きや店舗での盗難、育成センターへの不法侵入などがあり、監視カメラの増設や機械警備の強化など警備体制の見直しが求められる。	【評価できる点】日々の保守管理業務を適切に実施していること
		巡回警備の徹底	□警備員による館内巡回警備の徹底。 最低1日2回。(開館日のみ)	実施	実施	警備員の定期的な巡回1日4回を実施した。	
		巡回による事故・犯罪の早期発見	■開館、閉館時や日常清掃時等に当施設内の巡回を実施。公演時は死角になりやすい場所の巡回を増やす等重点的にチェック。	実施	実施	育成センター、店舗、各セクションスタッフとの情報共有にて警備巡回を規定数以上実施した。	
		マニュアル作成と事例共有	■事件・事故等への対策を講じた「危機管理マニュアル」を作成。ヒヤリ・ハット事例をデータベース化し共有、危機管理マニュアルにも反映させる。	実施	実施	ビジネスチャットを活用しリアルタイムで共有した。	
		清掃と整理による安全・快適性確保	■日常清掃により安全で快適な環境を提供。雨天時等はこまめにフロア清掃を行い、転倒事故を防止する。	実施	実施	天候に応じた清掃業務を実施した。	
		防犯に関する情報提供と注意喚起	■日頃より警察や消防、近隣施設等との関係を強化し、不審者情報や街頭犯罪等に関する情報を得るようにする。また必要に応じて防犯チラシ・ポスターや貴重品紛失・置き引き等の注意喚起チラシを掲示する。	実施	実施	警察、消防、商店街とは日ごろからコミュニケーションを図り情報共有を行った。	
		急病人発生時	■必要に応じ消毒やAED等の応急措置が行えるよう、受付等に応急手当用品を常備する。	実施	実施	救急箱、AEDを設置し、救命研修を実施した。	
		各店舗緊急時対応	■館内から直接様子を見ることが難しい付属6店舗にパニックコールを設置して警備員が迅速に対応できる体制をとる。	実施	実施	パニックコールの受信機を警備室前に設置し、各店舗に発信機を配布した。	
		モニター監視業務の強化	■増設された防犯カメラを活用して監視業務の強化を図り、正面玄関ホールや外周路のセキュリティ対応を効率的に実施する。	実施	実施	防犯カメラを活用した管理、警備を実施した。	
		警備員不在時間の短縮	■利用者車両の駐車案内等を効率的に行い、警備室が不在となる時間を短縮。警備室側出入り口からの入館者の受付対応、不審者対応を強化する。	実施	実施	警備室の不在時間短縮にため駐車車両の案内を効率的に行なった。	
4 防火・防災等(使命5・様式14)	平常時の防災対策	■23時以降は全館機械警備を実施し、24時間緊急対応が可能な体制を構築する。	実施	実施	23時以降は機械警備を実施した。	【成果】計画通り実施した。 消火器の増設、利用者へは避難誘導員を増やすなど防災対策を強化した。 【課題】固着している防火ダンパーの修繕は課題としている。	【評価できる点】日々の保守管理業務を適切に実施していること
		□自衛消防隊を設置し、年1回消火訓練を実施する。	年1回	年2回	7月、2月に初期消火訓練を実施した。		
		□年2回防災訓練を実施する。	年2回	年2回	7月、2月に防災訓練を実施した。		
		■主催者へ館内避難経路図及び広域避難場所の案内を配布して万一の災害に備える。	実施	実施	主催者に避難経路図、広域避難場所案内図を配布した。		

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

5 緊急時の対応(使命5・様式14)	1 緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■全職員に対し緊急時の連絡体制と役割分担についての周知を徹底する。 ■大規模災害時には帰宅困難者一時滞在施設として適切な機能が果たせるよう、共同事業体各社が応援要員を派遣するなどのバックアップを行う。	実施	実施	役割分担記した緊急連絡網を配備した。	【成果】 計画通り履行した。 【課題】 何度も経験を重ねて身に着けていくものではないため、マニュアルや訓練でしっかりと準備するためのノウハウやスキルの獲得が課題である。	
	2 災害発生時の取組	■地震、火災、台風など、災害の危険が予想される時は来館者の安全確保を最優先とし非難措置や必要な緊急対処を行うほか、横浜市と協議の上、閉館等の措置を適宜実施する。	実施	実施	降雪に伴う施設管理に関して横浜市と情報共有した。		
	3 障がい者の安全管理対策	■災害発生時に障がい者を避難させる場合は、誘導担当職員が付き添うとともに、最終的に避難の完了を現場責任者が確認する。	実施	実施	車いす利用者の避難誘導について講習を実施した。		
6 感染症等衛生管理(使命5)	新型コロナウイルス等の感染症対策	清掃業務	■持続除菌効果を持つアルコールを用いた清掃を実施すると共に、日常清掃時及び定期的なホール内座席等の除菌を実施する。	実施	実施	定期的に消毒を実施した。	【成果】 ガイドラインに則り計画通り履行した。 【課題】 前年度に比べコロナ禍は落ち着いてきたが、感染症防止対策はガイドラインが肝となるため早め早めにご案内いただくことを望む。
		設備業務	■新型コロナウイルス終息までは外気の取り入れ空気を最大にした感染予防最優先の空調管理を実施する。また、感染リスクを低減できる温度・湿度に館内環境を調整する。	実施	実施	利用状況に応じた高効率な空調管理を実施した。	
7 その他施設管理に関する事項	1 来場者に対する近隣駐車場の案内など円滑な駐車場対策	■付近の駐車場マップを作成し、来場者にご案内する。	実施	実施	公式webサイトに周辺駐車情報を掲載し案内を実施した。	【成果】 計画通り履行し、複合施設の管理者として、施設全体の美観を維持し、快適な環境を提供した。 【課題】 店舗の契約形態や賃料が変更になり、今後撤退する店舗が出た場合に、新たな入居者を得ることが困難になることが予想される。	
	2 併設する青少年センターに係る業務	■日常清掃、定期清掃、巡回警備、保守管理を実施する。	実施	実施	育成センター保守管理を実施した。		
		□毎月1回、催事スケジュールについての情報交換を行う。	実施	実施	月間イベントカレンダーを共有した。		
	3 併設する6店舗に関する業務	□附属6店舗と、情報共有や運営改善のための連絡会を定期的に開催する。	年2回	年1回	7月に全体会を実施した。日ごろから個別ヒアリングや、コミュニケーションを図り施設の状況など情報共有した。		
		■定期的にエアコンや消防設備の点検、店舗前の巡回警備、防犯対応、清掃を実施する。	実施	実施	店舗エリアの管理を実施した。		
		■横浜市と定期賃貸借契約を締結する。各店舗と賃貸借契約を締結する。	実施	実施	横浜市と定期建物賃貸借契約を締結し、各店舗と賃貸借契約を締結した。		
		■入居店舗が撤退した場合は市と協議の上、新入居者を選考する。	実施	—	退去した店舗はなかった。		
		□電気主任技術者(3種)を1名選任する。	1名選出	1名	電気主任技術者1名選任した。		
	4 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□建築物環境衛生管理技術者を1名選任する。	1名選出	1名	建築物環境衛生管理技術者を1名選任した。		
		□特定産業廃棄物管理責任者を1名選任する。	1名選出	1名	特定産業廃棄物管理責任者を1名選任した。		
		□甲種防火管理者を1名選任する。	1名選出	1名	甲種防火管理者を1名選任した。		

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
V収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 利用率の目標設定(様式22-B)	利用率の目標	□大ホール、小ホール、リハーサル室(4部屋)において令和4年度の利用率の目標を設定	大ホール93.8% 小ホール83.0% リハーサル室 49.0%	大ホール92.4% 小ホール79.3% リハーサル室 53.7%	大小ホールの利用率目標未達となつたが、リハーサル室においては目標値を上回った。	【成果】 大ホールの利用率は目標未達ではあるが、コロナの影響でキャンセルが多い中健闘した。小ホールはコロナの影響で苦戦を強いられた。リハーサル室は目標達成。 【課題】 小ホールの空き状況についてマイ練習プランを実施するなど利用率上昇に繋げる。	【評価できる点】 コロナによる影響もあるなか、目標に近い利用率を達成できたこと 経費削減に向けて空調の効率的な運転に取り組んだこと
2 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式23)	1 自主事業の充実による事業収入の増加	□実施事業数と事業収入の目標を設定	33事業 2,440万円	34事業 2,089万円	3事業が中止になつたが、34事業を実施した。収益の多い公演が中止になつたため、収入が大きく減ることとなつたが、支出も削減できた。	【成果】 リハーサル室のポイントカードは好評を博し利用率も上昇している。	【課題】 多くの事業が収益を出しているため、持ち出し部分の一部を補填する公的助成金を活用するメリットは限定的である。オープンデーなど無料で開催している事業は見直しが必要である。収益性の高い公演事業と持出が多い普及育成事業のバランスを検討していく。
	2 割引優遇制度など独自の利用料金制度の実施	■直前利用割引やリハーサル室スタンプサービスなどの各種利用料割引を継続し、利用者数の向上に努める。	実施	実施	各種割引制度を実施し、利用者数は前年度を上回つた。	【成果】 リハーサル室のポイントカードは好評を博し利用率も上昇している。	【課題】 多くの事業が収益を出しているため、持ち出し部分の一部を補填する公的助成金を活用するメリットは限定的である。オープンデーなど無料で開催している事業は見直しが必要である。収益性の高い公演事業と持出が多い普及育成事業のバランスを検討していく。
	3 質の高い事業企画による企業協賛や公的助成金の活用	■主催事業について公的助成金や企業協賛を得られるよう積極的に取組む。	実施	実施	地域創造の助成事業を実施し、普及育成事業の負担を軽減した。次年度に向けて、協賛依頼を行つた。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
3 経費削減等効率的運営の努力(様式23)	1 職員のマルチジョブ化によるサービス向上とコスト削減の実現	■定例会議の実施や情報の共有(PCサーバー)により各職員が担当職のみならず相互に業務を補完することで効率的な運営を実施する。	実施	実施	ビジネスチャットを活用した情報共有により高効率の運営を実施した。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
	2 管理経費の削減努力	■3期の運営経験から得たノウハウを活用することで、さまざまな経費を削減し、サービスの向上とコスト削減に努める。	実施	実施	高効率な空調管理により電気使用量を抑制した。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
	3 ヨコハマ3R夢プランに基づく日常的な3R活動における省エネルギーの推進	■施設内で3R(リユース・リデュース・リサイクル)を推進し、廃棄物の減量および適正処理を行うとともに、必要な無いライトを消灯するなど、全職員が省エネルギー化に努める。	実施	実施	不要な灯りはこまめに消すなど節電に努めた。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
	4 業務の平準化・見える化による生産性の向上	■業務手順についてワークフローやマニュアルを作成するなど、業務の標準化を進め生産性の向上に努める。	実施	実施	業務マニュアルを更新し平準化を図った。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えすることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
	5 ビジネスチャットツール及びパソコンの共有サーバーを活用した業務効率化	■情報共有手段としてグループウェア・共有サーバーを活用し、作業の効率化を図る。	実施	実施	ビジネスチャットを活用した情報共有により高効率の運営を実施した。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
	6 施設管理におけるコスト削減や予防保全による中・長期的な維持管理経費の削減	■チェックリストを用いた巡回点検に重点を置き、些細な不具合の早期発見および小破修繕により、中長期的な経費削減を図る。	実施	実施	点検項目はチェックリスト化し日頃より不具合箇所の早期発見に努めた。	【成果】 空調システムにおいては、経験則に基づき外気導入率を調整し効率よく運転することで前年度より電気・ガスの使用量を抑えることが出来た。燃料費が高騰しているなか運営の努力により電気・ガス利用料抑制に繋げた。	【課題】 東京電力最終保障ではない電力会社との契約を結ぶことが先決だが、厳しい状況に変わりはなく、引き続き電気・ガスの使用量を抑え収支圧迫とならないよう努める。
VI 各種計画書・報告書の作成及び業務	業務の基準	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
各種計画書・報告書の作成	1 日報、月報の作成・管理	■業務日報の作成	実施	実施	業務日誌、設備日報による管理を実施した。	【成果】 適切に履行した。	【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。
		■管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングにおいて報告	実施	実施	運営状況をモニタリングで報告した。	【成果】 適切に履行した。	【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	■事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施	R3年度事業報告書、R4年度事業計画書を作成した。	【成果】 適切に履行した。	【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。
		■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施	事業計画書に沿った報告書を作成した。	【成果】 適切に履行した。	【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。
	3 業務評価の実施	■自己評価	実施	実施	R3年度自己評価を行つた。	【成果】 適切に履行した。	【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。

令和4年度 横浜市市民文化会館関内ホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

VII その他	公募要項	取組内容	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応 (様式26)	1 個人情報保護	■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱う。	実施	実施	個人情報の適正な取り組みを実施した。	【成果】 適切に履行した。 【課題】 外壁工事の影響で枯れた馬車道側植栽、緑化パネルは植栽の植え替えが必要である。	【評価できる点】 適切に取り組んだこと。
		□職員向けに個人情報保護に関する研修を実施	年1回	年1回	4月に実施した。		
		■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備	実施	実施	個人情報取扱マニュアルを整備した。		
	2 情報公開	■「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に準じて作成した「関内ホール情報公開規程」に基づき、行政文書開示請求等に対して適切に対応する。	実施	実施	「関内ホール情報公開規程」に基づき、行政文書開示請求等に対し適切に対応するよう実施した。		
	3 人権尊重	□職員一人一人が人権尊重を実践するよう人権研修を実施	年1回	年1回	1月に実施した。		
	4 環境への配慮	■利用者によるごみの分別状況を確認し、分別の徹底を依頼する。	実施	実施	ごみ袋ごと分別の徹底を依頼した。		
		■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めるとともに、職員によるゴミ分別励行を行いゴミの資源化を促進する。	実施	実施	ごみと資源を分けリサイクルを促進した。		
		■横浜市が推進する「みどりアップ計画」に則り、周辺地域の緑化に協力する。	実施	一	外壁工事期間の日照不足の影響で馬車道側植栽が枯れてしまったが、次年度に入れ替えを実施する。		
	5 障害者差別解消	■障がい者を含むすべての利用者が、安全安心で快適に施設を利用できるよう、取組を進める。	実施	実施	全ての利用者に対しホスピタリティを持った対応に努めた。		
	6 男女共同参画	■職員が、性別等により個々の能力を制限されることなく発揮できる環境づくりを行う。	実施	実施	職位、性別等に制限されない環境の醸成を実施した。		
	7 市内中小企業優先発注	■「横浜市中小企業振興基本条例」を踏まえ、修繕等の発注、物品及び役務の調達等にあたって、可能な限り市内中小企業への優先発注に努める。	実施	実施	可能な限り市内中小企業への発注に努めた。		
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■「指定管理者業務の基準 別添資料」に基づき施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入する。	実施	実施	施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入した。	【成果】 適切に履行した。 【課題】 計画通り着手しており、次年度以降も引き続き継続していく。	【評価できる点】 適切に取り組んだこと。
	2 関係法令等の順守	■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認する。	実施	実施	法令順守に努めた。		
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、隨時共有する。 □附属6店舗と、情報共有や運営改善のための連絡会を定期的に開催する。 ■馬車道商店街、住吉町内会の連絡会等に出席する。	実施 (再掲)	実施 年1回	事故や不具合が発生した際、市への報告は滞りなく実施した。 7月に全体会を実施した。日ごろから個別ヒアリングや、コミュニケーションを図り施設の状況など情報共有した。 馬車道商店街、住吉町内会の連絡会に出席した。		